

ラムサール条約登録湿地 中池見湿地 を題材に、 ESD プロジェクトを実施しました！



「国連生物多様性の10年（UNDB-J）」
主催の生物多様性アクション大賞2015
において本プロジェクトは入賞しました。

三井住友信託銀行では2012年より、
環境専門のインターネット放送局グリーンTVジャパンと協働して
次世代を担う子供たちに向けたESD（持続可能な開発のための教育）プロジェクト
に取り組んでいます。

第6弾となる今回のESDプロジェクトは、福井県敦賀市にある「中池見湿地」を題材に取り上げました。



中池見湿地は、周囲三方を山に囲まれた約25ha
の自然豊かな湿地です。市街地から約2kmの場所に
ありながら約3,000種の生きものが生息し、多様性
あふれる生態系が育まれています。この湿地は絶滅危
惧種の渡り鳥・ノジコが飛来し、希少種を含むトンボ
72種が確認できる国内随一の場所としても有名です。

「袋状埋積谷」と呼ばれる地形の下には約40mにも
及ぶ世界的にも希少な規模の泥炭層が確認されてい
ます。この泥炭層には少なくとも10万年分の気候変
動に関する貴重なデータが含まれており、海外からも
たくさんの研究者たちが視察に訪れています。

2016年1月22日（金）、福井市立社西小学校の6年生56人を対象に、当社社員がファシリテーターとなって
ICT（情報通信技術）を活用した環境教育の授業を実施しました。

授業では、中池見湿地で撮影した映像教材を用いながら、中池見
湿地の豊かな自然とその希少性、かつては田んぼとして利用されて
いた歴史、農業の衰退によって持ち上がったガスタンク基地の開発
計画について説明しました。そして、その開発計画を知って、この
土地を守るために地域の人たちが起こしたトラスト活動について
子供たちに伝えました。



「大切な自然を簡単に壊してはいけない」、「貴重な湿地を守りたい」という思いで、地域の人たちがお金を出し合い土地を買い取り
守ったこと、その価値が世界的にも認められて2012年7月には
国際条約「ラムサール条約」の登録湿地に指定されたこと、北陸新幹線の開通ルートにも影響を与えたことを聞いた
子供たちからは、「すぐ近くに世界的にもすごい場所があるとは知らなかった」と驚きの声が上がりました。

湿地が生み出す水が豊かな自然を作り出し、生きものや人間の暮らしに恵みを与えていることを学んだ子供たちは
授業の最後に「地域の大切な自然・土地を守るために何ができるか」について自ら考え、意見を発表しました。
子供たちからは、「自然保護のためには県外の人たちにも広くその大切さを伝える」、「みんなに知ってもらえるよう
にポスターを作る」、「実際に湿地を見に来てもらう」といったたくさんの意見が出ました。

三井住友信託銀行は今後もナショナル・トラスト活動の活性化と臨場感あふれる環境教育の実践に努めてまいります。